

# 協働プロジェクト (Project LA)

2012年10月12日

**AITC協働プロジェクト会議  
(部会リーダー、運営委員有志)**

# ご紹介内容

1. Project LAの概要紹介
2. チャレンジする技術的な課題
3. その先の夢

# ご紹介内容

1. Project LAの概要紹介
2. チャレンジする技術的な課題
3. その先の夢

## 「知識から行動へ (Leads to Action) 」

「単に頭に入っている情報や知識に価値がある」状態から、  
「情報や知識を活用して行動し、日常生活に活かすことに  
真の価値がある」との考えに基づき、収集した情報を知識化し、  
行動を促す・行動を引き起こす仕組み作り

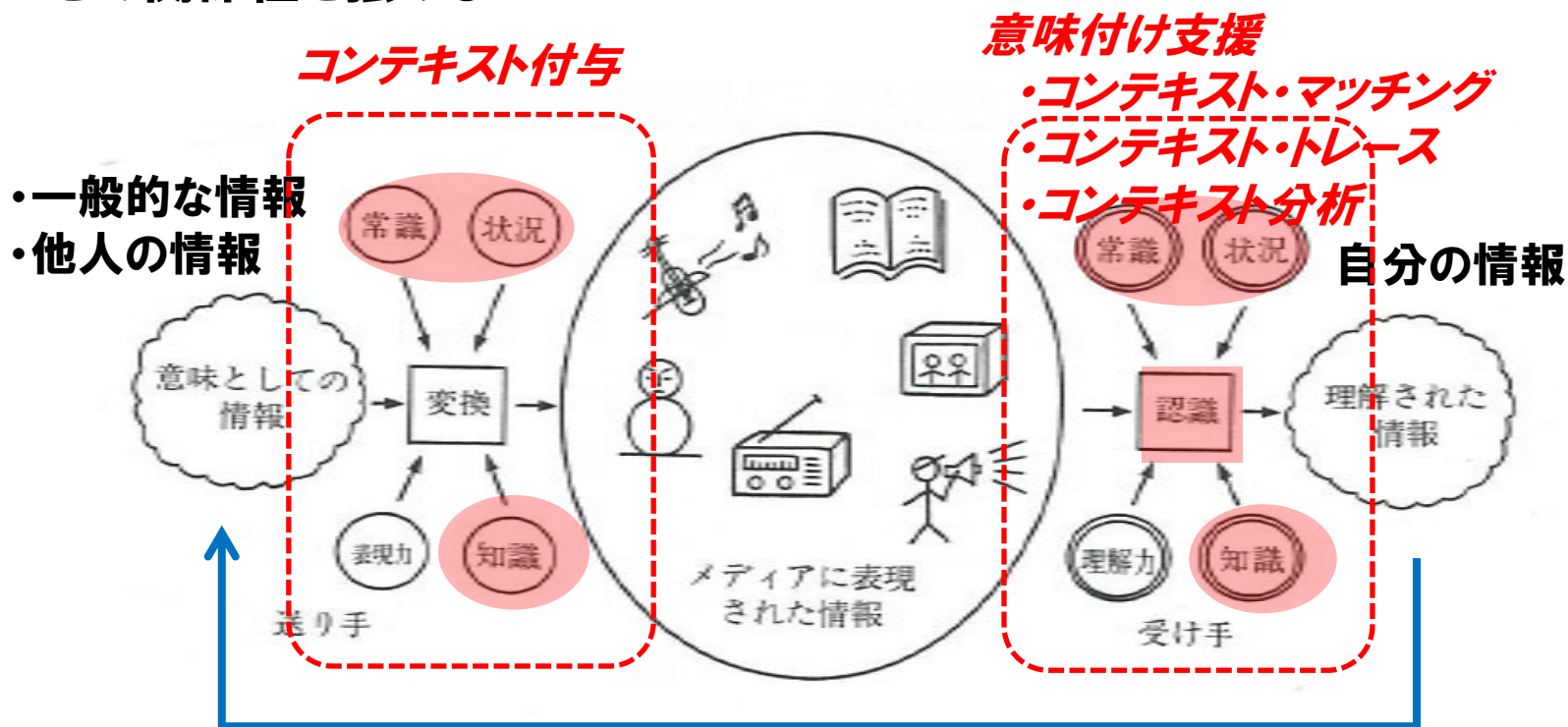


「新たなパラダイム、先端技術により実現する  
エクスペリエンス」

一般的な情報を、人と機械(コンピュータ)が協働し、  
自分に関わる個人化した情報に変換し、一人ひとりの行動  
を促す

# 情報が与える意味の変遷

System LAは受け手の認識に働きかけるために、  
送り手の情報の**コンテキスト(常識、状況、知識)**を構造化して記録、大規模に蓄積し、受け手の**コンテキストに沿った情報**を分析/選択/集約し、受け手との関係性を強める



ソーシャル・メディアの普及により  
受け手は自分の認識を発信

神沼 靖子,内木 哲也,基礎 情報システム論、共立 出版,1999

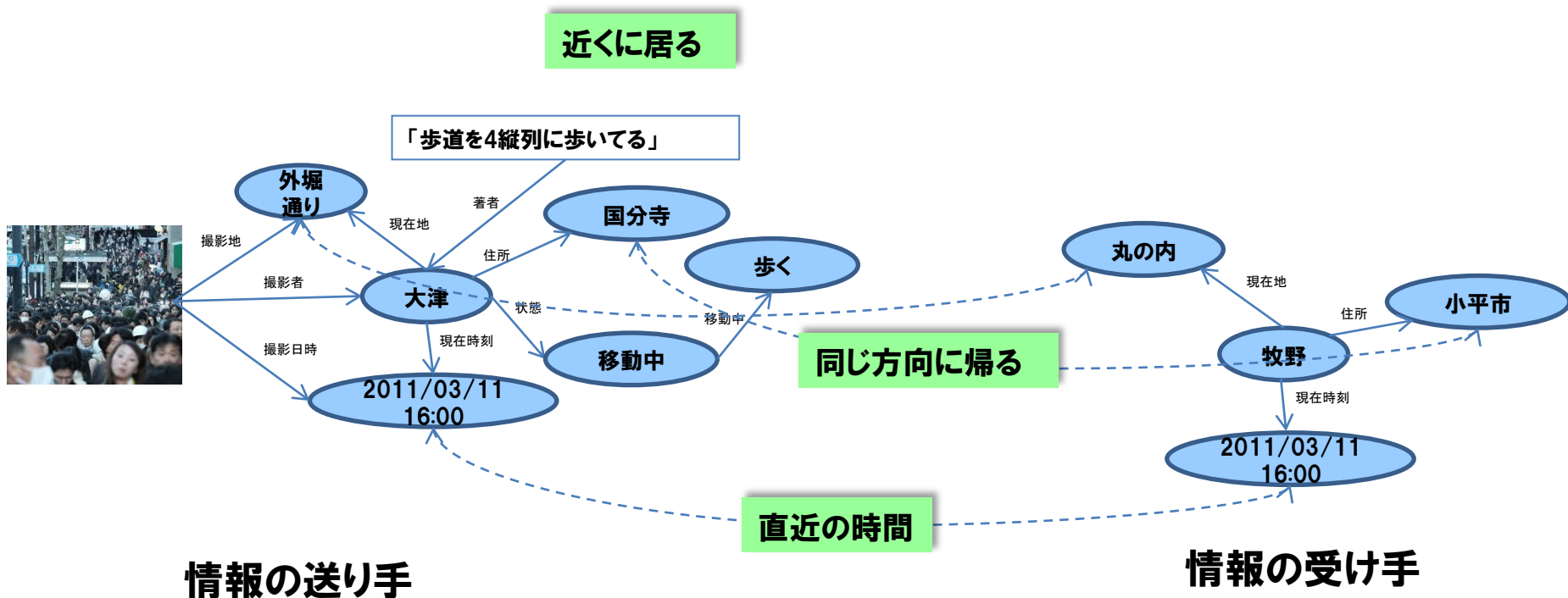
# 意味(因果関係)付けの支援

- **戦略1:機械が頑張る**
  - 機械が推論し因果関係を付ける
- **戦略2:人が教えあう**
  - ソーシャル・メディアで人々が認識した意味を共有する
- **戦略3:人だけでもなく、機械だけでもなく ← 今回**
  - 自分に似た人が知覚した意味を知る:コンテキスト・マッチング
  - 自分との関係性を知ることによって意味付けを容易にする:コンテキスト・トレース
  - 自分を基点に大量データをさまざまな視点で分析可能にする:コンテキスト分析



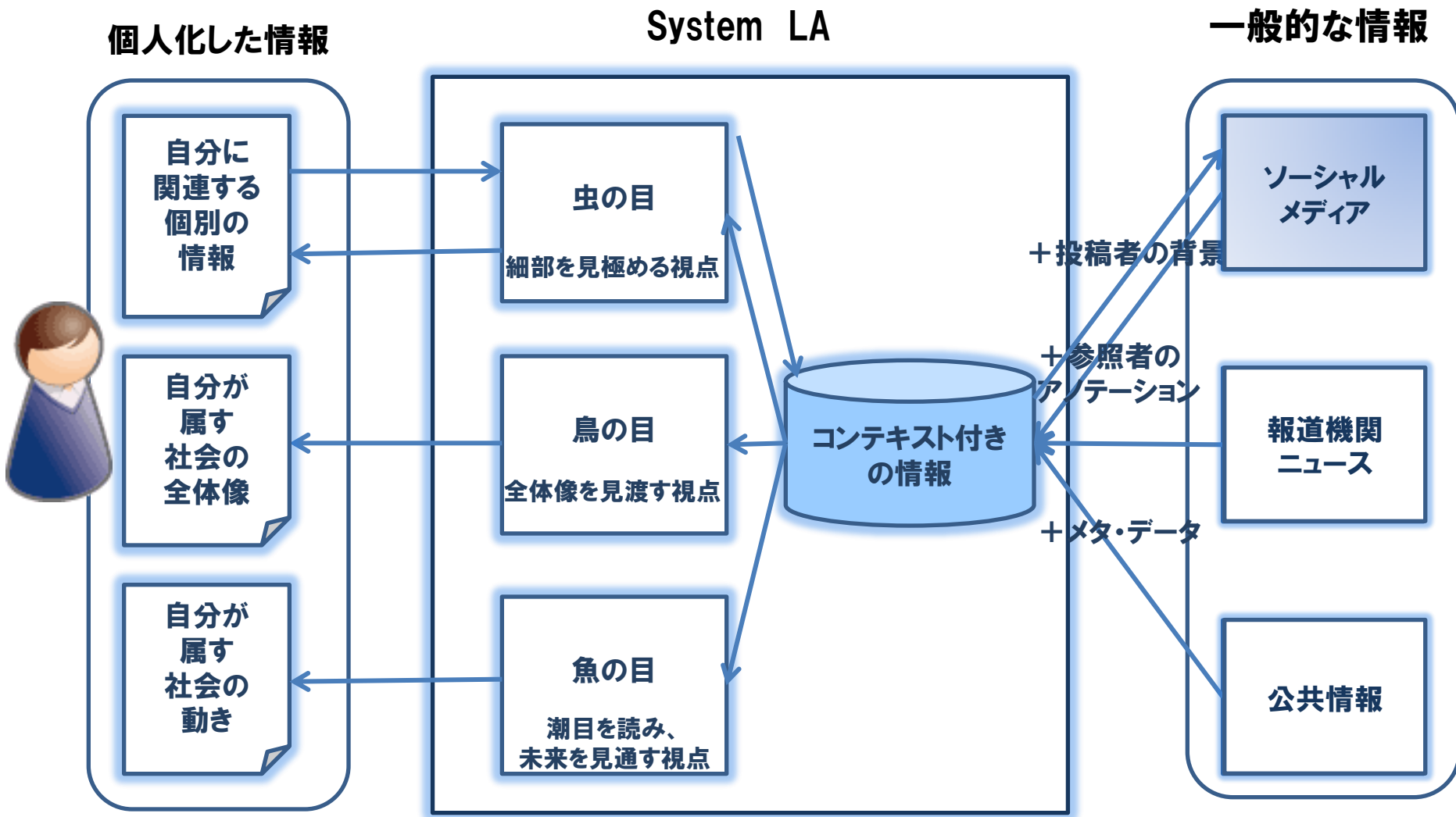
# コンテキスト付与(構造化)の実現

- 主語・述語・目的語の三つ組構造(形式はRDF)で表現
- 構造が柔軟 → 多様な情報を関係性で表現できる
- 構造が単純 → コンピュータ・パワーが活きる



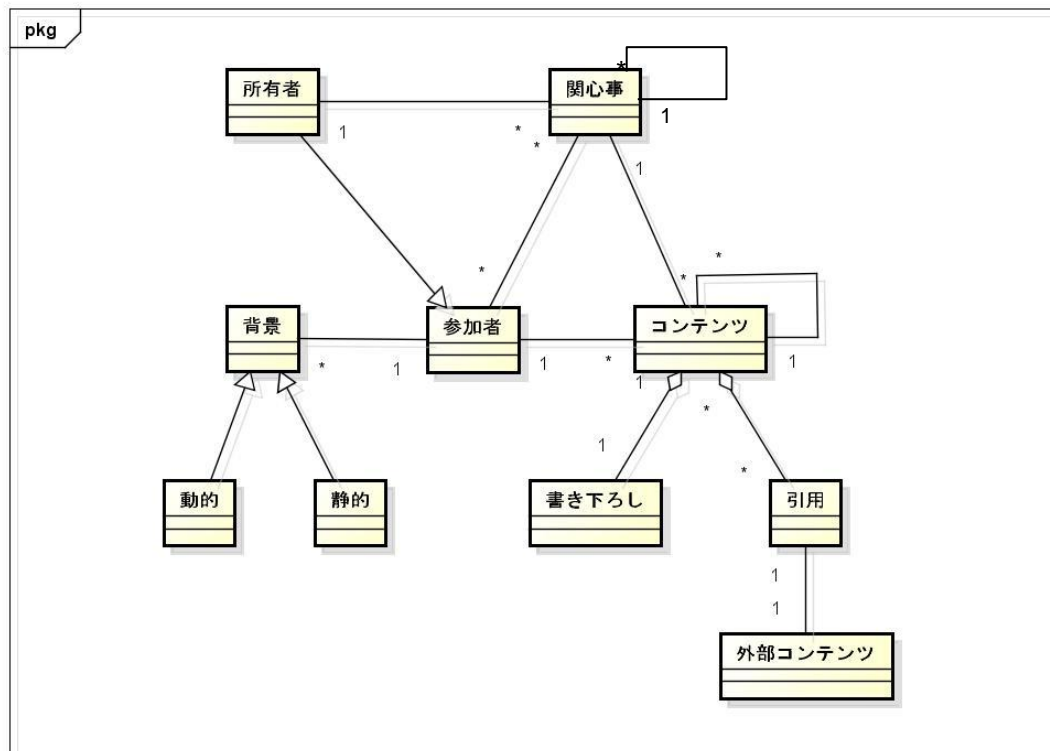
# System LAの概要

システムは状況の異なる一人一人が適切な行動を取るために、一般的なビッグデータを自分への影響が分かる個人化した情報に変換して提供する。





- System LAの一部となるデータにコンテキストを付ける仕組みを紹介
- 「関心事」、「コンテンツ」、「参加者」など、それぞれ独立したチャック(データとコンテキスト)を動的に構成し、大量なデータからなる大規模なコンテキストを形成する
- 「関心事」は「コンテンツ」のメタデータ  
属性・属性値のセット
- 「関心事」は親子関係を持ち、対話の中で動的にサブ「関心事」を作ることができる



- 実装
  - 関心事、コンテンツのデータ構造編集
  - コンテキストの記録(データの構造化)
  - コンテキストの検索・分析・集計
- 効果
  - 利用者自ら設定したデータ構造
    - ← 関心事、コンテンツの設定
  - 自分のコンテキストに沿った情報
    - ← 利用者のコンテキストでフィルタリング
  - 真なるデータに基づく統計情報(アンケートでない)
    - ← コンテキストの分析・集計
  - コンテンツの信頼度
    - ← コンテンツの依存関係など構造化されたデータの評価計算
  - 情報(フロー)の知識(ストック)化
    - ← サブ関心事の生成、動的に仕切られた対話構造

## 個人化した情報の提供

2013年3月に目指す  
System LA

<General>

システムの利用者自ら自由にデータ構造  
(コンテンツ、コンテキスト)を設定

将来

<Reactive>

利用者が適宜システムを  
操作する

従来システム

<Proactive>

システムが適時、利用者  
に働きかける

<Special>

システムの提供者が特定のデータ構造で  
予め実装

# Project LA スケジュール構想

2012年

2011年12月

1月

2月

3月

4月

合宿資料の  
集約

部会での検討/他団体とのContact

Feed Back

説明会用  
資料の作成  
& UP

4/20  
説明会@Day

開発開始

2012/8/27~  
Week

開発続行

β発表

2012/12

開発  
Done

会員公開  
Feed Back  
Data拡充

2013/3. 11

会員外  
公開

システム報告書

一般公開  
評価

2013/9. 21

評価  
+  
最終  
報告書